

第六十七回帝國議會
衆議院

勞働者災害扶助法中改正法律案外二件委員會會議錄(速記)第二回

會議

昭和十年三月十八日(月曜日)午後一時五十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 森田 政義君

理事山口忠五郎君

坪山 德彌君

出塚 助衛君

松尾 孝之君

藤井 啓一君

出席政府委員左ノ如シ

內務政務次官男爵 大森 佳一君

社會局長官 赤木 朝治君

社會局書記官 北岡 壽逸君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

勞働者災害扶助法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

工場法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

鑛業法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

○森田委員長 ソレデハ會議ヲ開キマス

○大森政府委員 簡單ニ御説明申上ゲマ

ス、此三法案ニ付キマシテハ、代表的ノ勞働者災害扶助法ノ改正趣旨ヲ申上ゲマスルナラバ、自然ニ御説明ニナル譯デアリマス、勞働者災害扶助法ハ御承知ノヤウニ土石、砂鑛採取事業、土木建築業、鐵道、軌道、若クハ乗合自動車ニ依ル運輸ノ事業、竝ニ貨物積卸ノ事業等ニ適用セラレツ、アルノデアリマス、本法ハ昭和七年一月カラ施行セラレタノデアリマスガ、其法律ノ施行後ノ狀況ヲ見マスルニ、鐵道、軌道若クハ索道ノ運輸事業、又ハ水道、電氣若クハ瓦斯ノ事業ニ於キマシテハ、此法律ノ第一條第一項ノ第二號(ロ)ニ規定シテアリマサル通り、是等ノ事業ニ於ケル土木工事、又ハ工作物ノ建設、保存、修理、變更若クハ破壊ト言フヤウナ工事ニ付キマシテハ、其事業主ノ直營工事ニ付テノミ、此法律ガ適用セラレテ居リマスル結果、其事業ノ運營上常時繼續シテ行ハル、小修理、其他ノ保存の工事デアリマシテモ、若シソレガ註文ニ依ッデ爲サル、場合ニハ、其工事ハ本法ノ適用ヲ見ナイコトニナルノデアリマスルガ、今是等ノ事業ニ於ケル小修理、其他ノ保存

の工事ノ施行ノ實情ヲ見マスルニ、斯ウ云フ工事ハ必シモ事業主ノ直營ニテ行ハレナイ、一定ノ條件ノ下ニ他人ニ註文ヲシテ、常時繼續シテ行ハレテ居ルモノガ少ナイ實況デアリマシテ、其狀況ハ事業主ガ直營デ行フモノト何等ノ差異ヲ發見スルコトガ出來ナイヤウナ狀況デアリマス、隨テ若シ斯カル工事ガ此法律ノ適用ノ外ニ在ルコトトナリマスレバ、直營ニ依ルモノト註文ニ依ルモノトノ間ニ、彼此レ均衡ヲ失スル次第デアリマシテ、改正法案ニ於キマシテハ此後ノ者ニモ、即チ註文ニ依ル者ニモ本法ヲ適用スルコト、致シマシテ、サウシテ此間ノ均衡ヲ得ナイ不合理ノ點ヲ除カウト云フノガ、一ツノ趣旨デゴザイマス

次ニ第二トシテ本法ノ第四條ニ於キマシテハ、第一條第一項第一號又ハ第四號ノ事業ガ、専ラ同一ノ註文者ノ註文ニ依ッデ爲サル、場合ニハ、其事業ノ註文者ニモ第二次的ノ扶助責任ヲ負ハシムルコトヲ規定シテ居ルノデアリマス、船舶ノ貨物ノ積卸ノ作業、又ハ鐵道、軌道若クハ索道ノ運輸事業、水道、電氣若クハ瓦斯ノ事業ニ於キマ

付託議案

勞働者災害扶助法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
工場法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
鑛業法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

スル保存の工事ニ於キマシテハ、其作業若クハ工事ガ其事業ノ運營上極メテ、密接ナル關係ヲ有チ、而モ其作業若クハ工事ヲ引受クル者ノ中ニハ、資力薄弱ナル者モ少クアリマセヌノデ、假令是等ノ作業又ハ工事ガ同一ノ註文者ノ註文ニ依ルモノデナイ場合デアリマシテモ、勞働者ノ災害扶助ノ完キヲ期スル爲ニ、扶助責任者ヲ單ニ勞働者ヲ直接使用シテ作業、若クハ工事ヲ爲ス者ノミニ止メナイデ、斯カル作業若クハ工事ノ註文者ニモ、第二次的ニ扶助ノ責任ヲ及ボスコトニスル必要ガアルト云フコトデ、左様ニ致シタ次第デアリマシテ、是ガ第二點デゴザイマス

次ニ第三トシテ、勞働者災害扶助ト損害賠償トノ關係デアリマスガ、此關係ニ付キマシテハ、勞働者災害扶助法施行令ノ第三條ニ扶助ヲ受クベキ者ガ、民法ニ依リ同一ノ原因ニ付テ損害賠償ヲ受ケマシタ時ハ、事業主ハ扶助金額カラ、其金額ヲ控除スルコトヲ得ト規定シテ居ルノデアリマスルガ、多クノ場合ニ於テ本法ニ基ク扶助ハ、民法ニ依ル損害賠償ニ先ツテ、迅速ニ行ハレ

テ居ルヤウナ關係モアリマスルノデ、改正法律案ニ於キマシテハ、事業主ガ成規ノ扶助ヲ、定メテアリマスル扶助ヲ爲シマシタル場合ニハ、其爲シタル扶助ノ金額ノ限度ニ於テ、民法上ノ損害賠償ノ責任ヲ免ル、コト、致シ、仍テ事業主ガ同一原因ニ付テ、二重ノ負擔ヲ受クルコトノナイヤウニシヤウト云フ次第デアリマス、又扶助請求權ノ性質ニ鑑ミマシテ、特ニ二年ノ短期時効ヲ設ケテ、更ニ其權利ノ讓渡、差押ヲ禁ズルコト、シタノデアリマス、斯ウ云フヤウナコトガ此災害扶助法ノ改正ノ要點ノ趣旨デ

今日改正ニナリマスト云フノハ、何カ實際問題ニ付テ痛切ナ支障デモ生ジタノデアリマスカ、此勞働者災害扶助法案ノ立法當時ニ、想像シ得ラレル規定デアラウト考ヘテ居リマス、ソレヲ今日ニ至ッテ改正案ヲ御提出ニナツテ理由、其動機、原因ガ何カアリマスカ、御思慮ガ及バナカッタ、斯ウ承知致シテ宜シウゴザイマスカ、其點ヲ一ツ伺ヒタイト思ヒマス

出スモノガアリマシテ、サウ致シマスト云フト、直營ノ場合ト請負ノ場合トニ、之ヲ區別スルト云フコトガ實際問題ト致シマシテ、甚ダ均衡ヲ得ナイト云フヤウナ實例ニ遭遇致シマスノデ、其點ヲ補正致シタイト云フ趣旨デアアルノデアリマス

トハ、此後ニ至ッテ起ルノデアリマスカラ、寧ロ扶助ヲ致シタ者ガ、損害賠償ノ責任ヲ其範圍ニ於テ免レルト云フヤウニ扱ヒマシタ方ガ、實際ニ適スルコトニナルノデアリマス、又今一ツハ此規定ヲ設ケテ置キマセスト、扶助ハ扶助デアッテ、損害賠償ハ損害賠償デアアル、別個ノモノデアリマスカラ、扶助ヲ致シマシテモ又損害賠償ノ請求權ヲ矢張生ズル、扶助ヲ致シテモ損害賠償ハ損害賠償トシテ、二重ニシナケレバナラヌト云フヤウナ解釋モ出テ來ル處ガアルノデアリマス、現ニ左様ナ實例モアリマシタ爲ニ、此改正ヲ致シタイト云フ考カラ、斯様ナ改正案ヲ提出致シタノデアリマス、短期時効ヲ定メタト云フヤウナコトモ、是ハ別段新ナ事實ニ基イタト云フ譯デハアリマセヌガ、是モ最初カラ斯様ナ規定ガ設ケテアツテ宜カッタト思フノデアリマス、此改正案ノ序ニ其様ナ請求權ノ性質ニ鑑ミテ、是レ位ノ短期時効ニ致シタラ宜カラウ、斯ウ云フ意味ヲ以チマシテ、此改正ノ序ニ此改正規定ヲ附加ヘタ次第デアリマス、左様ナ意味ヲ以チマシテ、此改正案ヲ提案致シタ次第デアリマス

○赤木政府委員 御答申上ゲマス、今回ノ改正案ハ只今説明モアリマシタヤウニ、數點ニ互ッテ居ルノデアリマスガ、第一點ノ本法ノ適用範圍ヲ、新ニ擴張致シマスル部分ニ付キマシテハ、是ハドウ云フ趣旨カラ、

トデアアルノデアリマス、例ヘバ損害賠償ノ關係デゴザイマストカ、此請求權ニ付テ、新ニ短期ノ時効ヲ定メルト云フヤウナコトハ、是モ立法當初カラ固ヨリ御話ノ如ク考

リマス、現ニ左様ナ實例モアリマシタ爲ニ、此改正ヲ致シタイト云フ考カラ、斯様ナ改正案ヲ提出致シタノデアリマス、短期時効ヲ定メタト云フヤウナコトモ、是ハ別段新ナ事實ニ基イタト云フ譯デハアリマセヌガ、是モ最初カラ斯様ナ規定ガ設ケテアツテ宜カッタト思フノデアリマス、此改正案ノ序ニ其様ナ請求權ノ性質ニ鑑ミテ、是レ位ノ短期時効ニ致シタラ宜カラウ、斯ウ云フ意味ヲ以チマシテ、此改正ノ序ニ此改正規定ヲ附加ヘタ次第デアリマス、左様ナ意味ヲ以チマシテ、此改正案ヲ提案致シタ次第デアリマス

ゴザイマス、是等ハ工場法中ノ改正、鑛業法中ノ改正、總テ以上ト同ジヤウナ改正ヲ見テ居ルノデアリマス、改正案トシテ要點ハ何レモ共通シテ今申上ゲマシタヤウナ次第デアリマス、中々實際上ニ於キマシテハ、相當ニ御質問ガアラウト豫想シテ居リマス、出來ルダケ十分御答辯、御説明ヲ申上ゲタイト思ッテ居リマス、何卒十分御審議、御協賛アラムコトヲ御願スル次第デゴザイマス

○藤井委員 此改正案ハ此勞働者災害扶助法ノ御制定當時、想像シ得ラレルコトデアラウト思ッテ居リマス、ソレガ其御制定當時ニハ、此改正案ノ如キ法文ヲ設ケズシテ、

○藤井委員 要スルニ本改正案ハ、本法立法當時ニ注意スベキニモ拘ラズ、注意ヲ

○藤井委員 要スルニ本改正案ハ、本法立法當時ニ注意スベキニモ拘ラズ、注意ヲ

政府ニ於テ意ラレタト云フコトニ承知スル
ヨリ外途ガナイノデアリマス、サウ承知致
シマス、今一ツ第四條ノ末項デアリマスガ、
此説明書ニ依リマス「第二次責任者ハ民
法ノ保證責任ト連帶責任トノ中間ニアリ催
告ノ抗辯ヲ有スルモ檢索ノ抗辯ヲ有セザル
モノトス」トアリマスガ、保證責任ト連帶責
任ノ中間ニアルト云フ立法例ガ、他ニモア
リマスカ、アリマスナラバソレヲ御示シテ
願ヒタイ

○北岡政府委員 此立法例ハ他ニナイト思
ヒマス、是ハ今日ノ改正案ニ新シイモノデ
ハゴザイマセヌノデ、現行法ニモゴザイマ
スヤウデアリマス、此第二次責任者ノ範圍
ヲ廣メタダケデゴザイマシテ、第二次責任
者ノ責任ノ性質ハ、現行法トチットモ變テ
居リマセヌ

○藤井委員 保證責任ト連帶責任トノ中間
ニアツテ、催告ノ抗辯ヲ有スルモ檢索ノ抗辯
ヲ有セザルモノトアリマスガ、中間ニアル
ト云フガ如キ、催告ノ抗辯ダケヲ持タシ
テ、檢索ノ抗辯ヲ持タセナイト云フヤウナ
コトニ、御規定ナサツタ理由ヲ御示シテ願
ヒマス

○北岡政府委員 此災害扶助法ノ制定當時
誰ニ責任ヲ負ハセルカト云フコトハ、隨分

實際問題トシマシテ、ヤカマシイ問題デアッ
タノデアリマス、當時民間ニハ主タル請負主
若クハ第一請負主ノミニ責任ヲ負ハセルト
云フ論ト、ソレカラ又一番下ノ請負主、詰リ
親方ニ責任ヲ負ハセルト云フ論ト、其兩者
ニ連帶責任ヲ負ハセルト云フ論ト、其他各
種ノ論ガアツタノデアリマス、デ法律論カラ
申シマスルナラバ、連帶責任ニシマシタ方
ガ、勞働者ノ權利確保ニハ一番確實ナ答デ
ゴザイマスケレドモ、實際上トシマシテ勞
働者ニ對シマシテ平等ノ地位ニ立ツテ、必ズ
責任ヲ負フ者ガ二人以上アリマスルト云フ
コトハ實際困ル、甲ノ者ニ行クト甲ノ者ハ
乙ニ行ケト言フ、乙ニ行ケバ、乙ノ者ハ甲ニ
行ケト云フノデ、甲ニ行ケ、乙ニ行ケ、アツ
ヘ行ケ、コッチヘ行ケト云フノデ、却テ權利
ヲ實現スルノニ不便ガ多イ、ソコデ成ベク
連帶責任ニ近イコトニ致シマシテ、而シテ
ドレニ先ニ行クカト云フ其順序ダケハ規定
シタラ宜カラウ、斯ウ云フ趣旨カラ致シマ
シテ、先ヅ一番勞働者ニ近イ所ノ、之ヲ直
接使ツテ居ル親方ニ行ツテ其處デ先ヅ要求ス
ル、サウシテ其人ガ直グ拂ハナイ場合ニハ
其上ノ元請負ナリ、若クハ註文主ノ所ニ行ッ
テ請求スルト云フコトニ致シタノデアリマ
シテ、連帶責任ニ一番近イ唯順序ダケヲ付

ケル、斯ウ云フ趣旨デ保證責任ト連帶責任
トノ中間ト云フ他ニ餘リ例ノナイ責任制度
ヲ決メタ次第デゴザイマス、實際上ハ之ニ
依リマシテ、割合ニ圓滑ニ行ツテ居ルヤウ
デアリマス

○藤井委員 改正案ノ御趣旨ノアル所ハ諒
解致シマシタ、尙ホ一ツ催告ノ抗辯ダケヲ
致シテ、檢索ノ抗辯ガ出來ナイト云フコト
デ效果ガアリマスカ、唯催告ダケノ權利ヲ
求メテ、檢索ノ抗辯ヲ求メヌト云フコトニ
依ツテハ、效果ノ上カラ言ヒマシタナラバ私
ハ頗ル疑フノデアリマス、サウ云フ風ナ偏
頗ナ御規定ニナリマシタコトハ如何デアリ
マセウカ、效果ノ頗ル薄イ——效果絶無ト
申シテモ宜カラウト思ヒマス、唯催告スル
ト云フノミデハ如何デゴザイマセウカ

○北岡政府委員 第一次責任者ト第二次責
任者、即チ親方ト元請負主、註文主ト云フ
モノハ、非常ニ密接ナ關係ヲ有ツテ居ルモ
ノデゴザイマス、通常此第二次責任者ハ、
第一次責任者ニ對シマシテ請負代金カ何カ
サウ云フモノヲ支拂フ關係ニナツテ居リマ
ス、隨ヒマシテ本來第一次責任者デゴザイ
マス所ノ勞働者ヲ使ツテ居ル者ガ、支拂フベ
キ扶助其モノヲ拂ハナイト云フ場合ニハ、
詰リ勞働者ガ其親方ノ所ニ扶助ヲ請求ス

ル、然ルニ親方ハ拂ハヌデ、第二次責任者
ヘ戻テ行キマシタ場合ニ、第二次責任者ハ
民法上所謂檢索ノ行為ヲ行使シテ、頑強ニ
自己責任ヲ輕クセズトモ、自分ガ一應拂ッテ
置キマシテモ、割合容易ニ此第一次責任者
カラ回收出來ル、自分ガ拂ヒマシタ扶助ノ
中ノ求償ヲ實行出來ルヤウナ地位ニアルモ
ノデゴザイマスカラ、檢索ノ抗辯ハ認メル
必要ハナイト云フノガ第一ノ理由デゴザイ
マス、第二ノ理由ハ、是ハ主タル理由デゴ
ザイマスガ、大キイ災害者ト云フモノハ、
勞働者ノ扶助ヲ確保シヨウト云フノガ主要
ナ目的デアリマスカラ、ソレハ檢索ノ抗辯
ト云フヤウナ、非常ナ強力ナル行為ヲ第二
次責任者ニ與ヘマス云フト、第二次責
任者ニ付テ扶助ノ要求ヲスルト云フコト
ハ、非常ニ困難ニナリマシテ、勞働者ノ扶
助ノ確保ヲスル所以ニナラスト思フノデア
リマス、デゴザイマスカラ勞働者保護ノ趣
旨カラ申シマシテ、檢索ノ抗辯ハ第二次責
任者ニ認メナカツタ次第デアリマス

○藤井委員 御説明ノ御趣旨ダケハ拜承致
シマシタ、サウ致シマス今一ツ、第一次、
第二次、第三次トマア責任者ヲ言ヒマス、
此第一、第二、第三ノ責任者間ノ普通求償
權ト言ウテ居リマスガ、是ハ何等差異ハ生

ゼスコト、承知シテ宜シウゴザイマスカ、普通民法ニ於キマシテ、求償權ハ此規定ノ爲ニ何等影響ヲ及ボスモノデハナイモノト、斯ウ考ヘテ宜シウゴザイマセウカ

○北岡政府委員 左様デゴザイマス、此當事者間ノ求償問題ハ、全然當事者間ノ契約、若クハ慣習等ニ委スノデアリマス、ソレデ窮極ノ責任者ハ直接勞働者ヲ使ッテ居ル請負人ニスルカ、若クハ中間ノ請負人ニスルカ、元請負人ニスルカ、註文者ニスルカ、是ハ全然當事者ニハ關係ガナイノデアリマシテ、是ハ何等内容ニハ觸レテナイト云フ趣旨デアリマス

○藤井委員 私ハ御提案ノ趣旨ダケヲ承知致シテ、此程度ニ止メテ置キタイト思ヒマス

○森田委員長 此法案ハ勞働者災害扶助法案實施後ノ狀況、又現在ノ有様等ヲ御研究ヲ爲サル必要モアラウト思ヒマスカラ、本日ハ此程度ニ致シマシテ——私モ參考資料ヲ本日受取ッタゲデスカラ、本日ノ質問ハ此程度デ止メマシテ、次回ハ……

○松尾委員 一寸政府委員ニ御願致シマ스가、今回ノ時効ガ短クナリマシタガ、此時効ガ短クナル以前ノ現行法ニ依ッテ、時効ヲ消滅シテシマッタ云フヤウナ事例ガ有

リニナルヤウニ、先刻御話ニナッタト思ヒマシタガ、サウ云フヤウナ何カ資料ノヤウナモノガアリマシタナラバ、御提出ヲ願ヒタイト思ヒマス

○北岡政府委員 此勞働者災害扶助法ハ昭和七年度ノ——モット以前デアリマシタカ工場法、鑛業法ニ付キマシテハ事例ガ有ッタト申シマスカ、無イト申シマスカ、裁判所ニ行キマシテ時効ノ爲ニ刎ネラレタト云フ判例ハゴザイマセヌ、唯私共ノ所ニ向ッテ陳情シマシタ中ニハ、若シ此二年ノ時効ナラバ、モウ當然ナクナッテ居ルモノガ、或ハ二年ノ時効デナイ爲ニマダ存續シテ居ル、サウシテ實際上怪我ヲシタカシナイカ、治ツタカ治ラスカ、ドノ程度ノ怪我ヲシタノカ、ソレ等ノ點ニ對シマスル條文ニ付キマシテ不明ナ爲ニ、隨分困ッタ事例ハアリマス、其場合ニ於キマシテハ實際上事業主ト双方呼ビマシテ、涙金ヲヤッテ法律的ノ解釋デハナクテ、人情ノ解釋デ解決ヲ致シテ居ルノガ、一般ノ慣例デゴザイマス、隨テ事例ト致シマシテ、此處ニ文書ヲ出ス程ノ資料ハ實際ハゴザイマセヌ

○松尾委員 今御答ニナリマシタヤウナ人情のナ意味ニ於テ、解決スルヤウナ事例ハ、私共モチヨイ——聽イテ居リマスガ、其事

例ガハッキリ御分リニナラヌケレバ、ソレデ宜シウゴザイマス

○比佐委員 一寸資料ヲ、此第一條ノ第二項ノ鐵道、軌道、索道ノ運輸事業又ハ水道、電氣若クハ瓦斯ノ事業ヲ營ム者ガ、其ノ事業ノ爲ニスル工事ニ付テ、現在ノ日本ノ實情デハ直營デヤッテ居ルノト、請負ニ致シテ居ルト云フノガアルガ、全國的ノ現在ノ實情ノ調査ヲ、此次マデ御提出ヲ願ヒマス

○森田委員長 ソレデハモウ資料ノ要求ハゴザイマセヌカ、デハ次會ハ明後日午後一時ヨリ開クコト、シテ、本日ハ此程度デ散會致シマス

午後二時二十二分散會